

## (2) 地域ぐるみの ESD 活動モデル事例形成プロジェクト

### ●業務目的

持続可能な地域づくりのために地域ぐるみで ESD 活動に取り組んでいる、又は取り組もうとしている地域のステークホルダーに対し、構想策定・事業計画策定・ステークホルダーの組織化に向けた環境整備支援を行う。もって、教育活動という側面から地域循環共生圏（ローカル SDGs）の実現に貢献する。

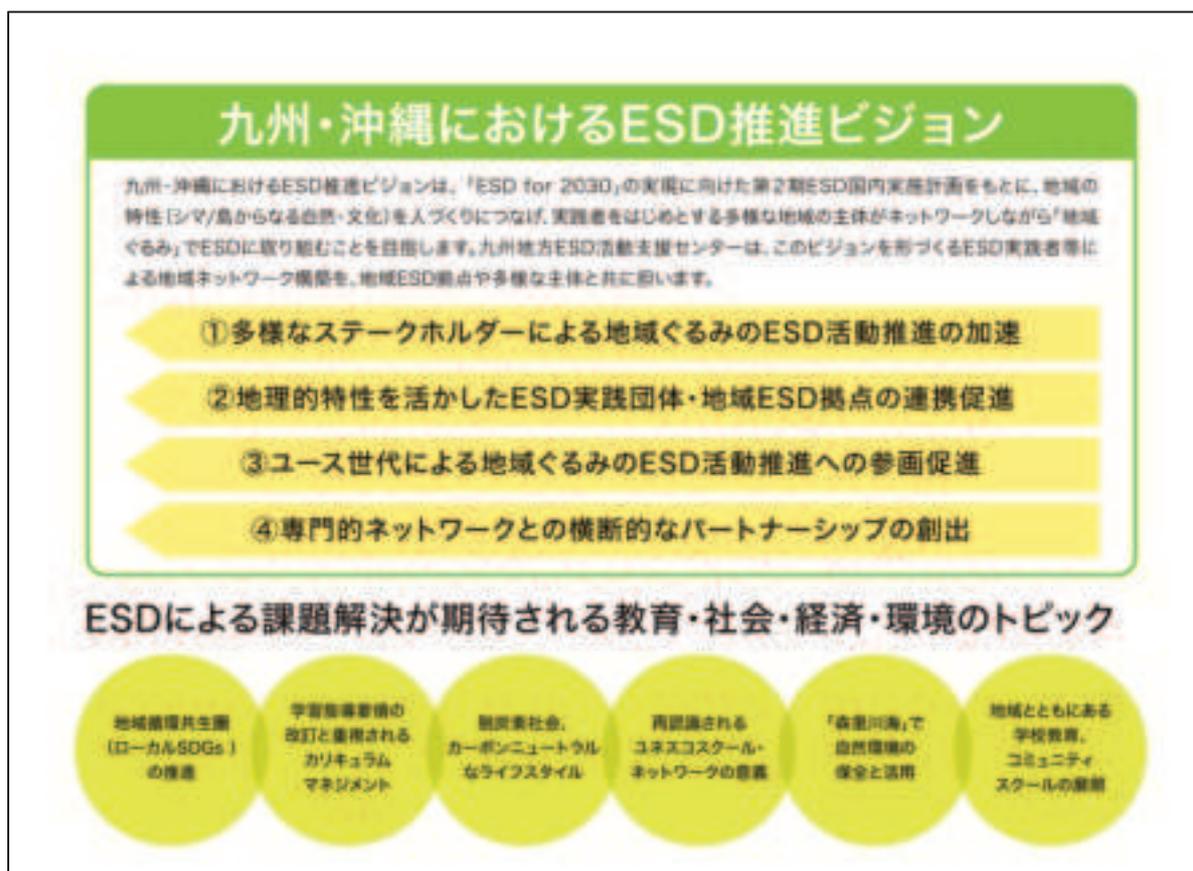
### ■プロジェクトの背景

九州地方 ESD 活動支援センターでは、第二期国内 ESD 実施計画、ESDfor2030 の九州・沖縄地域での実装に向けて、令和3年度「九州・沖縄地域 ESD 推進ビジョン」を策定した。

策定プロセスを通して、地域の現状と課題が把握され、推進ビジョンの実効性を向上させたとともに、九州センターによる「地域ぐるみの ESD」の推進に向けた中期的な視点を獲得され、このような策定に向けた活動により、九州・沖縄地域の ESD 推進ネットワークが、中期的・具体的に目指す方向性について、実効性のある形で整理、明示された。

### 地域ぐるみの ESD 活動

「地域の姿」実現に向け、「この地域を持続可能なものとするためにはどのような人材の育成が必要かについて、多様なステークホルダーが集まって協議した上で ESD を推進する」取組や体制を指す。



図：九州・沖縄地域 ESD 推進ビジョン概要

## 九州・沖縄でのESDを活用した地域の姿

**地域ぐるみのESD活動を推進することにより、地域の多様な主体が支え合い協働して環境、経済、社会のバランスを保ちながら、地域の資源を守り次世代に伝える活動に取り組んでいる。**

### 地域課題の解決に向けた重点取組

- ・九州・沖縄地方の特性を踏まえたESDを推進する。特に、島しょ地域のESD推進に努める
- ・地域のESD活動（風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等を含む）を把握する
- ・多様な主体からなるネットワークを構築する
- ・人材の育成に取り組む
- ・経済的支援に結びつく取組を行う
- ・先進的、先導的取組の波及に取り組む
- ・脱炭素社会に向けた人材育成・ネットワークづくりを促進させる

九州地方 ESD 活動支援センターが実現を目指す地域の姿

令和3年度のビジョン策定プロセスでは、ESDの担い手・人材不足、ESDの推進体制整備（予算面）、ESD情報の不足等、多くの課題が把握され、推進ビジョンのターゲット・支援ニーズが明確となったとともに、多様な分野横断的なネットワークづくりのモデル形成と知見を獲得した。

同ビジョンにおいて、持続可能な地域（地域循環共生圏、ローカルSDGs）の実現に向けて、SDGs達成に向けた地域課題の解決に資する人材の育成を支援するESDの方針を明示した。

一方、地域が抱えている課題は複雑化しており、持続可能な地域は行政、企業、NPO、金融機関等の個々の力量だけでは実現できるものではなく、また地域課題を解決するような人材育成・教育活動を個々の主体が単独で実施することも困難な状況である。現在の地域課題は多種多様であり、求められる人材像や人材育成の内容・方法も地域ごとに異なる。

九州センターでは、推進ビジョンの具現化に向けたステップのとして下記の3点を想定し、令和4年度新規プロジェクトとして、九州・沖縄の各地域における地域ぐるみのESD活動の推進を目的に、実施地域以外でも波及、参照される事例を形成支援するプロジェクトを展開した。

- ①地域におけるESD活動実践者の増加・確保
- ②地域ぐるみのESD活動モデル事例の創出
- ③先進的な地域ぐるみのESD活動事例の横展開

### ■成果

九州・沖縄地域で地域課題の解決に向けてESDを推進、実践する団体から3団体（以下、パートナー団体）を選定し、各地の地域資源及び、地域課題に対応したプラットフォームの構築を支援した。

支援にあたっては各団体の特性や地域ESDの状況を把握し、リソースの活用と活動の持続可能性を主眼とした支援計画を策定した。ネットワーキング促進の機会として設定したステークホルダーミーティングの開催については、九州センターより開催計画から助言を行うとともに、地域関係者に対してESD基礎情報や先進地域のESD事例をインプットした。

これらの一連の支援を通して、パートナー団体の活動地域に「地域ぐるみの ESD 活動」に関するビジョンが共有、実装され、持続可能性を想定した活動プラットフォームが形成された。

本プロジェクトでは、地域ぐるみの ESD 推進、及び地域 ESD プラットフォーム構築のプロセスを記録、整理し、ロジックモデルを作成することで、実践モデルとしてのモデル性を高めることで、本プロジェクトの波及効果を最大化し、地域 ESD 推進ビジョンの実証事例を形成した。

## ア、プロジェクトスキーム

### ■実施概要

#### ・パートナー団体の募集

- ・募集対象：九州・沖縄地域において ESD 活動を実践、支援する団体  
※地域 ESD 活動推進拠点、管内自然体験施設、社会教育施設等
- ・募集期間：令和 4 年 4 月 28 日-令和 4 年 5 月 14 日（土）
- ・活動期間：選定から通年をとおして取り組み及びセンターによる支援を行う。
- ・募集方法： アンケート形式で参画希望団体を募集し、別途オンラインヒアリングを実施。

#### ・本プロジェクトで形成を企図する ESD 事例の要件

##### ① 人材育成の合意形成を進める事例

地域の現状と課題を適切に把握した上で、持続可能な地域づくりのためにどのような人材の育成が必要か協議する場があり、地域の中で共通認識が形成されている。

##### ② 合意形成をもとに ESD が実践される事例

行政、学校、企業などの多様なステークホルダーが参画した上で、地域資源を活用し、地域課題解決に資する人材の育成に繋がる教育活動が行われている。教育活動は、環境・経済・社会の統合的な向上についての内容を含むものである。

##### ③ ESD の取組そのものを持続させる事例

想定されている取組の実現可能性・継続可能性について適切に検討がなされている。取組自体に経済的・社会的な持続可能性が見込める。

#### ・団体によるプラットフォーム形成

##### ①ステークホルダーミーティングの開催

地域ぐるみの ESD 活動推進に向けて、パートナー団体が主導し、地域のステークホルダーを巻き込んだ形でのミーティングを 1 回以上（年度内）開催する。

開催にあたっては、九州 ESD センター・九州地方環境事務所と随時連絡を取り、必要に応じて打合せ等の対応を行う。開催に係る会場費や講師等に対する旅費・謝金は九州 ESD センターが負担する。

##### ②ESD 推進ネットワーク地域フォーラムにおける活動状況・成果の報告

九州 ESD センターが主催する ESD 推進ネットワーク地域フォーラムに登壇し、本プロジェクトの活動状況や結果について報告を行う。

##### ③その他、事務局との打ち合わせ対応及び情報の共有

## ■九州 ESD センターの支援内容（共通）

- ・パートナー団体訪問の上、活動に関する全体構想打ち合わせの実施
- ・定期的な情報交換、オンラインミーティングの実施
- ・地域の合意形成プロセス支援や意見交換会等の開催支援
- ・活動の実施に必要な専門家やステークホルダーの紹介
- ・ESD 支援活動の持続可能性に関する助言
- ・ESD 推進プロセスの特長や活動モデルの整理・分析
- ・ステークホルダーミーティング開催にかかる費用負担
- ・その他、パートナー団体との協議に基づく各種支援

## ■団体の選定プロセス

### 1. アンケート実施

- ・各地域において、モデル事例となり得るESD活動を行っている（または今後活動を検討している）団体に対し、活動の実施状況や抱えている課題・支援ニーズ等を把握するためのアンケートを実施した。

### 2. ヒアリングの実施

- ・アンケート結果を基に九州地方環境事務所・九州ESDセンターにおいて協議を行い、より詳細な情報を把握するため、選定候補である5団体に対し、オンラインヒアリングを実施した。

### 3. 団体に対する活動計画・支援内容の提案

- ・アンケート及びヒアリングの結果を基に、モデル事例となる団体に対して、年間の活動概要、把握された課題への対応策、九州ESDセンターと取組む企画や支援内容を提案。

### 4. パートナー団体を選定

- ・九州ESDセンターが提案した活動・支援内容について、了承された3団体をパートナー団体として決定。

## ■ヒアリングの実施

実施日	団体名	活動地域
令和4年5月20日（金）	一般社団法人環不知火プランニング	熊本県水俣市
令和4年6月1日（水）	海洋教育推進ネットワーク	沖縄県
令和4年6月1日（水）	一般社団法人まほろば自然学校	福岡県太宰府市
令和4年6月3日（金）	NPO 法人くすの木自然館	鹿児島県始良市
令和4年6月3日（金）	認定 NPO 法人地域環境ネットワーク	大分県

※応募された全団体について実施

## ■選定結果

九州地方環境事務所との協議の上下記の3団体をパートナー団体として選定。

- ・認定 NPO 法人地域環境ネットワーク（大分県）
- ・NPO 法人くすの木自然館（鹿児島県）
- ・海洋教育推進ネットワーク（沖縄県）

## イ、パートナー団体によるプラットフォーム形成活動概要

### ①特定非営利活動法人 地域環境ネットワーク（大分県）

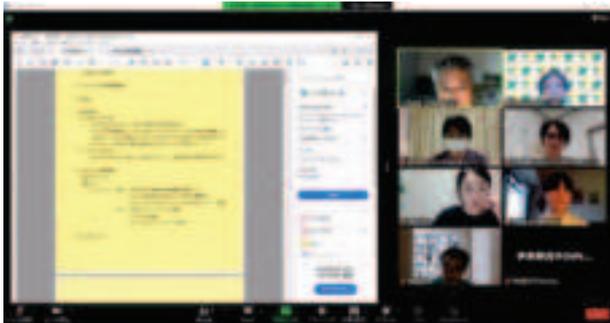
URL	<a href="http://npolen.la.coocan.jp/">http://npolen.la.coocan.jp/</a>
活動地域	大分県
沿革 活動概要等	2008 年度-「エコアクション 21 地域事務局おおいた」運営 2006-08 年度 / 2022 年度- 「大分県地球温暖化防止活動推進センター（大分県）」運営 2012-13 年度「公益財団法人おおいた共創基金（大分県）」設立準備 2013-15 年度「持続可能な地域づくりを担う人材育成事業（環境省）」受託 2015 年度- 「トビタテ留学 JAPAN 地域人材コース（文科省・JASSO・大分県）」支援 2022 年 地域 ESD 活動推進拠点 登録
地域課題	大分県内ではこれまで ESD 実践者が気軽に集い、地域課題を共有し、多面的に考える場が不足しており、ESD に関する「地域内相談・仲介窓口」が十分に整っていない状況があった。 行政機関、教育委員会との連携や対話が不足している現状がある。 令和 3 年度には九州 ESD センターとの協働で大分 ESD ミーティング、大分 ESD フォーラムを地域開催しており、地域内の ESD 実践者のニーズやビジョンの共有の契機が生まれている。
地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過年度開催ミーティング、フォーラムの参画メンバーとのネットワーク</li> <li>・その他、大分県内の環境活動団体等</li> </ul>
活動 ポイント	<p>これまでの取組で模索してきた、大分県内の ESD プラットフォームの方向性を探るとともに、その規模や実現性について具体的ビジョンを地域の教育関係者、行政、ESD 実践者と共有する。</p> <p>参加する人数や結果を出すことにこだわるのではなく、「持続可能な地域づくり」に意識をもつ実践者が「つながる」「共有する」ことを大切にしたプラットフォーム運営を心がける</p> <p>【地域から加入を企図する ESD 人材像】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●持続可能な地域づくりに実践する個人や団体（ジャンルは問わず）</li> <li>●一定の専門性を持っている個人や団体</li> <li>●多様なジャンルに興味を持っている個人や団体</li> <li>●他者を思いやるネットワーク志向を持つ個人や団体</li> <li>●基本的な IT スキルや情報交換が可能な個人や団体。</li> </ul>
活動の 持続可能性	<p>事務局機能を果たす団体の、資金や事務負担が少なく、気軽な情報共有ができるプラットフォームの形を模索することで活動の持続可能性を探る。</p> <p>これまで連携できていなかった主体に向けて、プラットフォームに参加することのメリットづくり・見える化を行い、多様な人材の参加拡大を行う。</p>
活動の モデル性	<p>「ESD 推進を担うゆるやかな対話の場づくり（プラットフォーム）」の必要性や、あり方、続け方などについての意識を共有し、実現のために必要な課題等を、プロセスを通して整理する。ステークホルダーミーティングの開催準備から、ネットワークに巻き込んでいきたい関係主体を明確化しアプローチを広げる。</p> <p>地域ぐるみで ESD を推進するゆるやかなプラットフォームが、様々な波及効果を生むことが確認することで、有効なモデル事例として他の地域、主体の参考になりうるテストケースとなる。</p>

■ステークホルダーミーティング概要

◎コアメンバーミーティングの開催

パートナー団体と協議の上、ミーティングの本開催の前に過年度の取組において連携した主体と「コアメンバーミーティング」を開催し、本プロジェクトに期待される点や課題の再検討を行い、論点を整理することで、ステークホルダーミーティングの開催成果を最大化することとした。

	第1回コアメンバーミーティング
開催日	令和4年8月23日(火) 18:30-12:00
会場	大分県森林づくりボランティア支援センター(大分市)
参加主体	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域関係者 4名 地域内NPO法人・技術士等</li> <li>■事務局 パートナー団体 九州地方ESD活動支援センター</li> </ul>
写真	

	第2回コアメンバーミーティング
開催日	令和4年9月18日(日) 17:00-18:00
会場	オンライン開催
参加主体	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域関係者 4名 地域内NPO法人・技術士・地域メディア・関心を持つユース</li> <li>■事務局 パートナー団体 九州地方ESD活動支援センター</li> </ul>
写真	

<p>第1回 第2回 議論要旨</p>	<p>【期待される場づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者に「我がごと」として集まって欲しいなら、目的の整理が必要だ。</li> <li>テーマ・軸は「環境教育」であることを明確にしておくべき。</li> <li>主催する研究会で一番有効なのは休憩時間である。参加者交流を温める緩い時間が大切だ。</li> <li>継続のためには、参加者にとって楽しい時間でなくてはならない。</li> <li>気軽なコミュニケーションの場であることを前面に出す。</li> <li>「ゆるやかな場づくり」としては、ESDという言葉は使わない方が良いのではないか。</li> </ul> <p>【参加対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ユースがキャリア形成の為に環境に関心を示している</li> <li>行政の環境部署以外の人も環境に関心をもち始めた。</li> <li>環境に近い人だけの集まりでは広がりが生まれない。</li> <li>SDGsに関心がある企業の参加もあると深まりが生まれると思う。</li> </ul>
-----------------------------	---

◎ミーティングの本開催

開催日	令和4年11月9日(水) 18:30-20:30
会場	ホルトホール大分 403 会議室 (大分市)
参加主体	<p>■地域関係者 12名 NPO 法人 社会教育施設職員 環境保全活動団体 技術士 地域メディア企業 関心を持つユース 大分県地球温暖化防止活動推進員 大分県うつくし作戦推進室</p> <p>■事務局 パートナー団体 九州地方 ESD 活動支援センター 九州地方環境事務所 環境対策課</p>
プログラム	<p>1. 主催者挨拶 (地域環境ネットワーク・九州 ESD センター) 2. 趣旨説明 (地域環境ネットワーク)</p> <p>3. 事例紹介</p> <p>■県外事例 みやざきSDGsプラットフォーム NPO 法人 宮崎文化本舗 石田 達也氏</p> <p>■県内事例 大分自然博物推進委員会 森田 祐介氏</p> <p>4. 質疑応答 5. フリーディスカッション：令和5年度開催を想定した企画会議</p>

<p>企画 ポイント</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">テーマ設定：「大分県 ESD 推進ビジョンについての合意づくり」</p> <p>2021 年度に開催した、九州 ESD センターによる大分 ESD ミーティング/フォーラムの開催で、県内の ESD 実践者の課題意識、及び支援ニーズについて、独自性の高い知見が得られた。</p> <p>今年度は、ESD モデル形成の準備プロセスとして、2 回の対話の場からコアメンバーが持つミーティング期待値について整理を行い、これまでの協議会、プラットフォームの推進のあり方は、既に行行政や主導団体が描いたビジョンを推し進める形態であった。しかし、これまでの活動の中で、地域課題の複雑化、多様化するステークホルダーに対応するためには、前述のような手法では限界があるという仮説に至った。</p> <p>パートナー団体による仮説のもと、2022 年度は持続的な ESD 実践の基盤づくりを行うために、ゼロベースで地域ぐるみの ESD 実現に向けた合意形成を図ることを目指す。</p> <p>今回のミーティングでは、これまでの準備プロセスで得られた知見をもとに、令和 5 年度に開催する対話の場、交流の場について、具体的なニーズや、参加者各々が持つシーズを明らかにし、今後の ESD プラットフォームの期待値を探る。</p> <p>後の活動の発展に向けて、硬直化したアイデアを打破し、自由な意見交換から地域ぐるみの ESD プラットフォームの新機軸を見出すとともに、参加者との長期的な関係づくりを実現することを企図する。</p> <p><b>■開催の留意点</b></p> <p>形式的な構築を目指すのではなく「大分県内に求められるプラットフォームとはどのような形態か」を参加者と十分に議論することを重視する。</p> <p>本当に必要とされる姿を探り出すことポイントとして、コアメンバーミーティングの内容を反映した構成を展開する。</p> <p><b>■事例紹介のポイント</b></p> <p>大分県内、大分県外からそれぞれ2つのプラットフォーム運営の先行事例を共有し、地域関係者に持続的なネットワーキングの形態を提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人宮崎文化本舗（宮崎県） 宮崎県における SDGs 達成に向けたプラットフォーム構築の事例を通して設立の意義や手法等を学び、当県ならではのプラットフォームを模索するためのヒントを得る。</li> <li>・大分自然博物推進委員会（大分県） ゆるやかなプラットフォームに端を発する、県内の生態系保全への好影響についての紹介。</li> </ul>
--------------------	---

<p>議論要旨</p>	<p>■意見交換より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラットフォームはどのレベルを目指すか？を参加者間で共有できていないと、次第に負担がかかる個人が生まれ、全体として継続が難しくなっていく。</li> <li>・プラットフォームの起点としては、まずはコミュニケーション、学び合い、という目標が満たされれば良いのではないかと。「おもしろさ」や「たのしさ」を優先させなければ継続的な活動は難しい。</li> <li>・次世代（ユース）をキーワードにするのであれば、中高生が自らの活動を発表できるような場となるのが望ましい。</li> <li>・経営学では「ゆるやかな状態」である方が、素早く、たくさん情報が与えられ、強みがあるとされており、この視点が地域にも必要である。弱いつながりを大切にしない社会だが今後、地域社会で求められるのは「弱いつながり」「多重に生まれている」という状態である。異分野の人材と出会いがあれば、楽しく集まれるし次回への期待も膨らむ。</li> </ul> <p>■議論によって整理された地域課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ESD 推進を担うゆるやかな対話の場づくり（プラットフォーム）」の必要性や、あり方、続け方など について意識を共有し、実現のために必要な課題等を整理したい。</li> <li>⇒ゼロからのスタートの難しさ、プラットフォームのレベルとテーマ設定、参加者の設定など。</li> <li>・11月開催予定の「ステークホルダーミーティング」の開催準備を通して、ネットワークに巻き込んでいきたい関係主体へのアプローチを広げたい。</li> <li>⇒大分 ESD フォーラムの参加者を重要視しつつ、間口の広さ（参加者設定）を検討。</li> <li>・地域ぐるみで ESD を推進するプラットフォームが様々な波及効果を生むことが確認できれば、モデル事例として他の参考になるのではないかと。</li> <li>⇒まずは第 1 回目に取り組み、実践しながら、無理せず、楽しみながら回を重ね、その様子を発信する。</li> <li>・同時に、2022 年 11 月に登録した「地域 ESD 活動推進拠点」としてのあり方も検討していく。</li> </ul>
<p>開催成果及び今後の展望</p>	<p>県内外の事例紹介により、長期的に多様な関係者を巻き込みながら継続するプラットフォーム像が関係者に共有され、持続可能なネットワークへの機運が醸成された。また多様な人材が参画することによる、ネットワーキング機会のクオリティアップや、「ゆるやかな」状態が生む強みとメリットについてイメージが関係者に共有された。</p> <p>これらの成果から、パートナー団体を主導にして、具体的に令和 5 年度に実施する対話の場の検討が複数進んでおり、継続的な ESD プラットフォームとして大分県の事例が機能することが期待される。</p>
<p>写真</p>	

■九州 ESD センターの支援

団体の拠点施設への訪問打ち合わせ、定期的なオンラインミーティング等を実施した。

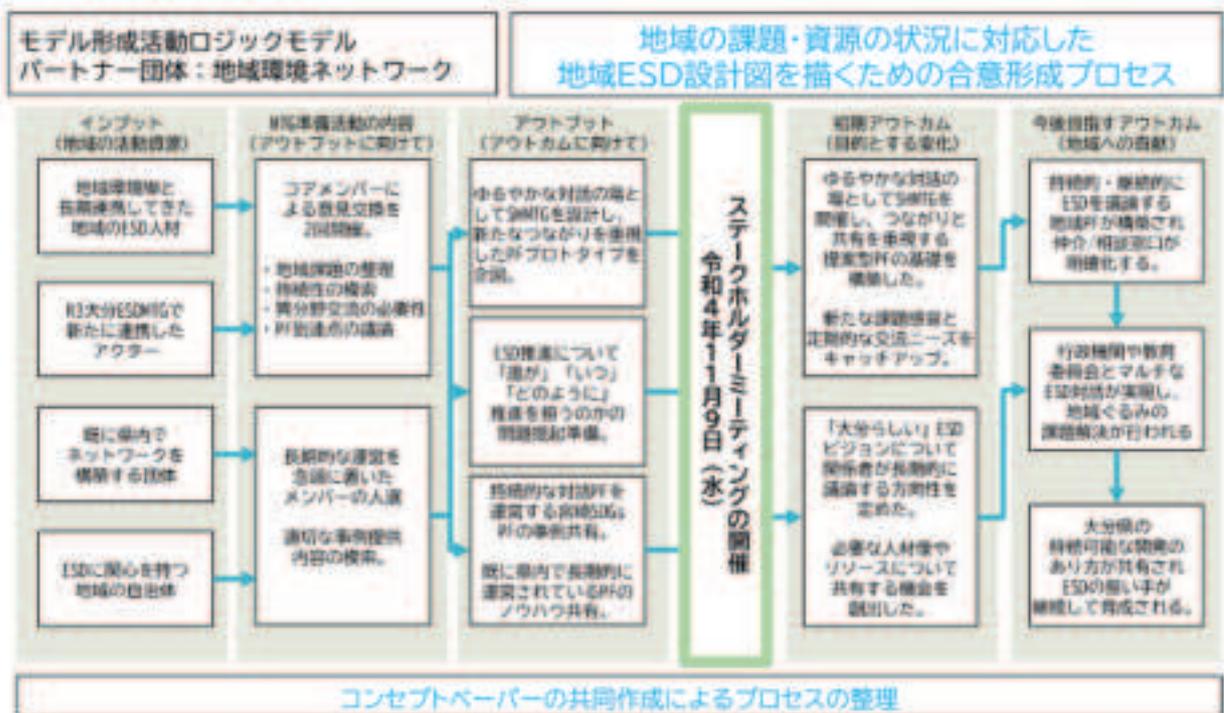
パートナー団体とは、令和3年度に大分ESDミーティングを2回開催したほか、地域ESD学びあいフォーラムの大分県開催で連携を行っており、ESDにおける地域課題について一定の焦点化がなされていた。

そこで当初、整理した地域課題、地域資源を基礎として、団体が描くプラットフォームビジョンを、よりよい手法で共有する場づくりについて協議した。その結果、ステークホルダーミーティングでの議論を、もう一段ステップアップすることを目的に、これまで連携してきたESD活動者との「コアメンバーミーティング」を開催することとした。

コアメンバーによる議論によって、パートナー団体の整理を基礎としつつも、「ゼロベースからのニーズ抽出」という観点での対話の場設計を支援した。

ESD推進における活動のモデル性を高めるための課題整理に注力した。

■パートナー団体活動ロジックモデル（九州 ESD センター作成）



②NPO 法人 くすの木自然館（鹿児島県）

URL	<a href="http://kusunokishizenkan.com/">http://kusunokishizenkan.com/</a>
活動地域	鹿児島県始良市
沿革 活動概要等	<p>1987年 「かごしま自然観察会（鹿児島自然観察指導員連絡会）」 発足          1995年 「環境教育事務所くすの木自然館（任意団体）」 設立          2000年 「特定非営利活動法人くすの木自然館」 設立          2006年 「重富干潟小さな博物館」 オープン          2015年 「霧島錦江湾国立公園 重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアム」の開館に伴う運営開始          2019年 鹿児島県共生・協働センター 一部運営受託          2020年 地域 ESD 活動推進拠点 登録</p>
地域課題	<p>地域では、鹿児島県地球温暖化対策室の行う「ESD 活動拠点が行うことでの体験の場形成事業」や、同 地域政策課による「かごしま景観学習」等、ESD の要素を含みながら学校教育と連携する仕組みが存在している。</p> <p>一方、ESD の推進に関心があり、協働により合意が進んだ行政担当者や教職員異動等により、事業が停滞するケースもあり「持続的な ESD 施策・事業」の実現が急務となっている。</p> <p>地域ぐるみの ESD 推進にあたって、異動という状況を克服することはできないため、この課題に対応した ESD プラットフォームの構築が求められる。</p>
地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>●問題意識を共有する行政、学校職員、農林水産業者</li> <li>●地域で歴史文化、天文等で学びを提供する社会教育施設</li> <li>●自然環境や生態系保全に関する専門家</li> <li>●環境分野以外の歴史民俗分野の専門家</li> <li>●エコツアーなど環境を活かした経済活動関係者</li> <li>●鹿児島県の特長である島嶼地域での先進的事例</li> </ul>
活動 ポイント	<p>活動継続を目的に行政部署と緊密に連携する、地域コアプレイヤーによる主体的な ESD 推進手法を目指す。</p> <p>行政職員や教職員自身が ESD 的視点を獲得、様々な部署においても人材がネットワークされることで、地域全体の底上げが行われるよう理解を拡大する。</p> <p>また、学校外の ESD 人材や団体をコアに、学校の内外へ活動が波及する仕組みを検討する。</p> <p><u>地域で育成したい ESD 人材像</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教育による持続可能性の学びを俯瞰的に考えられるプロデューサー。</li> <li>●学校組織と地域の主体を連携できる。</li> <li>●環境保全と経済活動の視点を併せ持っている。</li> <li>●社会システムを俯瞰し、広い視野で多角的に解決策が考えられる。</li> <li>●フットワークを軽く多様な主体と対話ができる。</li> <li>●ファシリテーション技術がある。</li> <li>●環境保全的思考を持っている。</li> </ul>
活動の 持続可能性	<p>企業や事業者を巻き込んだ経済的な持続可能性を模索するとともに、行政職員の異動に関する課題に耐えうるアクターとして、社会教育施設が主体的に活動するスキーム形成を意図する。</p>

	<p><b>仮説：始良市の社会教育施設をコアとした ESD 推進システム構築</b></p> <p>「ESD」という共通言語はなくとも、市内に5箇所存在する社会教育施設は「持続可能な社会の担い手を育成する施設」として、多角的に活動している。これらの施設では、展示解説に ESD 視点を加えることで更に高水準の体験提供ができると考えられる。</p> <p>また、施設運営において行政の人事異動の直接的影響が少なく、教育・訪問・学習の場を確実に持つことから、ESD 視点を取り入れることで、地域の ESD 推進のコアメンバーへ変化できるのではないかと考えられる。</p>
活動のモデル性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政との協働に関する課題が明確化されている。</li> <li>・「持続的な ESD 施策・事業」に向けたモデルとしての期待。</li> <li>・多様なステークホルダーの参画を促進する活動モデルである。</li> <li>・持続的な ESD 施策・事業・体制が地域課題解決に寄与するという仮説展開。</li> <li>・主要な地域課題と関連付けることで、環境教育・ESD のプレゼンスが高まる。</li> </ul>

### ■ステークホルダーミーティング概要

開催日	令和5年2月20日(月) 10:00-12:00
会場	重富海岸自然ふれあい館 なぎさミュージアム(始良市)
参加主体	<p>■地域関係者</p> <p>始良市教育委員会 学校教育課  始良市教育委員会 社会教育課  始良市教育委員会 文化財係  鹿児島県民の森 管理事務所</p> <p>■事務局</p> <p>パートナー団体  九州地方 ESD 活動支援センター  九州地方環境事務所 環境対策課</p>
プログラム	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主催挨拶</li> <li>2. 出席者自己紹介</li> <li>3. 九州 ESD センターから地域 ESD 事例の紹介 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ESD の基礎事項と本プロジェクトの説明</li> <li>・ 鹿児島県内での ESD 展開事例</li> <li>・ 北九州市の ESD ヒストリー紹介</li> <li>・ 大牟田市での ESD 推進プラットフォーム展開</li> <li>・ 屋久島町から見る「島しょ地域の ESD 推進」</li> </ul> </li> <li>4. ミーティングの目的及び話題提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域課題の共有</li> <li>・ 社会教育施設ネットワークの提案</li> </ul> <p>これまでの団体による重富海岸での取り組みを背景に、今後期待されるプラットフォームの拡大と、地域課題解決に寄与するポイント共有。</p> </li> <li>5. 感想共有と意見交換</li> <li>6. まとめ</li> </ol>

<p>企画 ポイント</p>	<p><b>主要アプローチ：社会教育施設とその所管課</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両者への ESD に対する理解の浸透のしかけ</li> <li>・近距離を活かした地域内連携による活動持続性担保</li> <li>・各施設提供コンテンツの ESD 視点による捉え直しの提案</li> <li>・施設にとっては行政事業への依存を軽減するファーストステップ</li> </ul> <p><b>ロードマップ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●施設職員への ESD、及び地域の持続可能性に関する共感醸成</li> <li>●各施設との ESD 推進に向けた課題共有と合意形成支援</li> </ul> <p><b>ネットワーキング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ESD 推進者としての社会教育施設連携</li> <li>●施設と行政がともに考える地域課題解決、イメージ共有の場作り</li> </ul> <p><b>活動の持続可能性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●施設を対象とすることで持続的な取り組みにおける人事異動による影響軽減</li> <li>●ESD 知見の相互参照による各施設のプログラムのクオリティアップ</li> <li>●持続可能性をエッセンスとして導入することによる施設利用拡大</li> </ul>
<p>議論要旨</p>	<p>■意見交換より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ESD の先進的事例から、始良市との共通点を見いだせた。</li> <li>・「始良市は何の町か？」という問いが重要ではないか。</li> <li>・地域資源の発掘についてのマインドは、まだまだ低い状況と感じた。</li> <li>・ユネスコスクールの取り組みについては市内の取り組みが重なる部分がある。</li> <li>・SDGs の実装も進んでいないが、既存の取り組みとの整合性を確認したい。</li> <li>・所管課による頭出しだけではなく施設職員によるワークショップも有効では。</li> <li>・既存の施設の事業と SDGs、ESD の要素が重なる部分が見えてきた。</li> <li>・解説により「持続可能性」というイメージが明確になった。</li> </ul> <p>■議論によって整理された地域資源</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジオパーク/国立公園/交通アクセスなど好立地のメッカ</li> <li>・まだ注目されていない文化財が多数存在している</li> <li>・文学/天体/文化/歴史に関する施設が一地域に集中</li> <li>・施設の多様性が ESD コンテンツのバリエーションへ繋がりそう</li> <li>・所管課と社会教育施設の連携の強さ</li> <li>・始良市内とその他の自治体との既存の施設ネットワーク</li> </ul>
<p>開催成果 及び 今後の展望</p>	<p>地域内社会教育施設、及び行政の所管課との合意形成が、ミーティングの開催により一気に進んだことで、施設間連携が具体化した。</p> <p>施設職員による ESD や SDGs に関する「学びあいの場」の設定のニーズが明確化し、場づくりへの機運が醸成された。</p> <p>各施設に ESD について関心のある人材を増やし、持続的かつ強固なプラットフォームを構築するビジョンが関係者間で共有された。</p> <p>今後の具体的な予定として、全施設との協働ではなく、一部施設間の展示連携などに着手し、具体的な事例が地域内から出てくることで、新規関係者の獲得につながることが期待される。</p>



■九州 ESD センターの支援

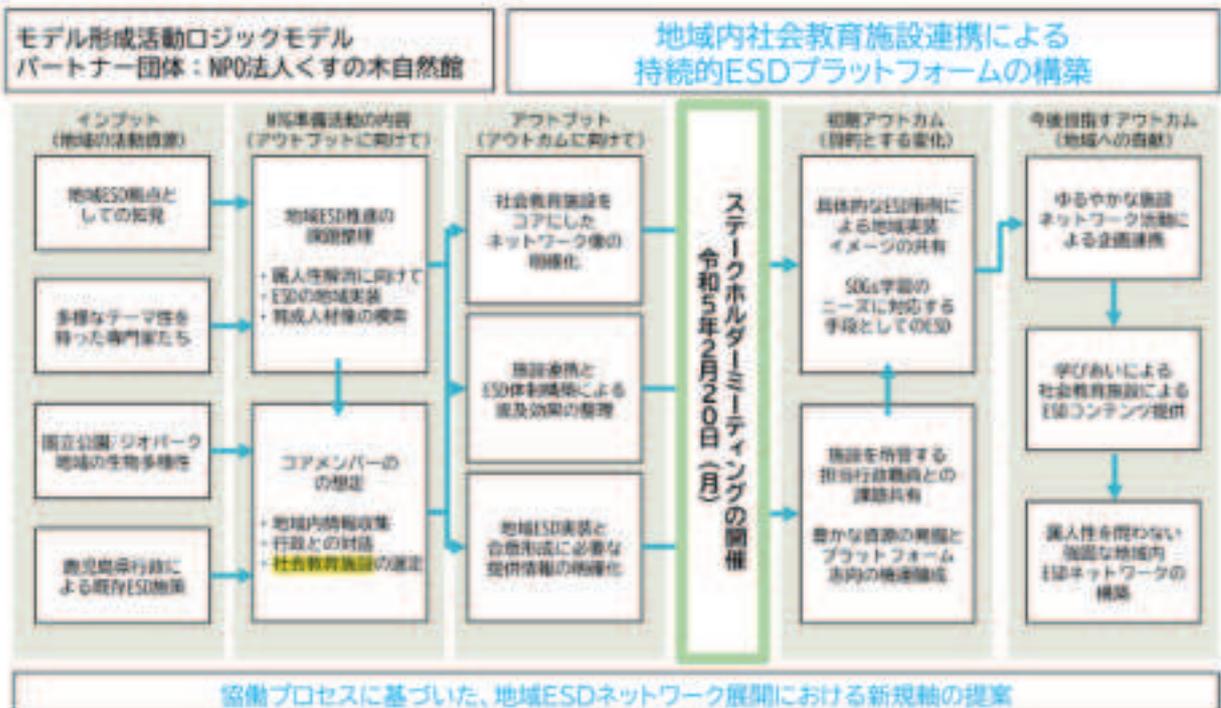
団体の拠点施設への訪問打ち合わせ、定期的なオンラインミーティング等を実施した。

パートナー団体は、協働取組や地域 ESD 活動推進拠点としての活動において、既に先進性のある団体であることから、外部の中間支援団体として「活動の新機軸」の提案に注力した。

ESD 実践における「行政職員の異動」という普遍的な課題にモデル性を見出し、地域資源を活用した解決手法をパートナー団体とともに模索し、地域内の社会教育施設の特長に再注目した。

複数存在し、施設の特色が多彩である始良市の社会教育施設特長も活かし、貴重な ESD アクターとして新たに脚光を当てるプロジェクトとして、新規性のある取り組みとしてプラットフォーム運営が開始された。

■パートナー団体活動ロジックモデル（九州 ESD センター作成）



### ③海洋教育推進ネットワーク（沖縄県）

活動事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>■合同会社 MIRAIME.Lab</li> <li>■URL : <a href="https://www.miraime-lab.com/">https://www.miraime-lab.com/</a></li> </ul>
活動地域	沖縄県
沿革 活動概要等	<p>2019年(平成31年)3月: 設立</p> <p>【事業概要】 人材育成のための教育事業、研修・講座の企画及びそれらのコンサルティングを実施し、ESDの普及推進事業に取り組む。 また、国際理解、環境保全を図る事業、子どもの健全育成事業、地域資源の活用及び地域コミュニティの持続的発展支援事業について、沖縄県全域で展開する。</p>
地域課題	<p>豊かな海洋環境に囲まれた沖縄県の島しょ地域では、海洋環境保全の必要性が今まで以上に高まる中、環境教育等の活動先駆者に続くESD担い手確保の課題を抱えている。</p> <p>沖縄地域の県民・市民においても、島の海洋環境課題（汚染状況や資源枯渇／減少）への興味関心に都市部と離島域で教育格差・意識格差が生じている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人材育成のネットワーク化 <ul style="list-style-type: none"> <li>●生態系や環境汚染への県民の関心・危機感の希薄化</li> <li>●予期される世代交代について、技術継承、担い手の育成が不足</li> <li>●担い手人材と先駆者をつなげるネットワークの整備不足</li> <li>●情報交換の場や学びあいの機会の不足</li> </ul> </li> <li>2. ESD活動の資金 <ul style="list-style-type: none"> <li>●人材育成の時間、経済的なコスト負担</li> <li>●学校教育の場での環境教育実践者不足</li> <li>●上記に伴い学校現場における環境教育関係者は個人の熱意やボランティアな活動に依存している。</li> </ul> </li> </ol>
地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>●島しょ地域の豊かな海洋環境、生物多様性</li> <li>●先駆的に海洋教育を推進してきた専門家</li> <li>●島を超えたESD実践者（海洋教育実践者）とのネットワーク</li> <li>●これまで獲得してきた観光業ステークホルダー</li> <li>●Web、ICT技術の活用によるマンパワーの軽減</li> <li>●研修費制度導入</li> <li>●クラウドファンディング、助成制度による資金獲得</li> </ul>
活動 ポイント	<p><b>活動目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 沖縄県における海洋教育の実践状況の把握</li> <li>② 先駆者による海洋教育の実践例の情報交流会の実施</li> <li>③ 段階的な担い手育成プログラムの検討及び実践</li> <li>④ 海洋教育推進ネットワークの構築</li> </ol> <p>◎全地域的な展開、または各島しょ地域に応じた個別展開の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●推進ネットワークの着地点についての明確化</li> <li>●沖縄の地域特性を考慮したモデル事例形成</li> <li>●行政主導ではない民間主導のメンバーシップ構築</li> <li>●地域人材像を協議する機会創出</li> <li>●学習者の行動変容を重視したESD活動の提供</li> </ul>

	<p>●島内集落等、島しょ地域を更に細分化した視点導入</p> <p>本プロジェクトでは、地域の子どもたちに ESD プログラムを直接提供するのではなく、ESD を推進する担い手の育成スキームの検討を行う。</p> <p>また経済格差、地域格差の側面から、教育機会を均等にする観点も考慮し、学校教育への海洋教育、ESD の導入を主眼に置いた活動を行う。</p> <p>先駆者による地域の海洋文化の継承や海洋環境の保全、敬愛育成に加え、グローバルな視点や協働して課題解決に向かう姿勢など新たな要素を取り入れた人材の育成が急務である。</p> <p>各島しょ地域間での課題共有、事例共有を行い柔軟な水平展開を行う。</p>
活動の持続可能性	<p>これまでパートナー団体が構築してきた島しょ地域の ESD 実践者とのネットワークをはじめとした活動リソースを持続的な活動の資源のひとつとして活用する。</p> <p>今回のプロジェクトを機に、プラットフォームとして発展することにより、各種補助制度、助成制度等の利用が視野に入るとともに、最終的な目標である「研修制度の実現」によって、長期的な ESD 活動資金の獲得を企図する。</p>
活動のモデル性	<p>豊かな自然資源、固有の歴史文化を背景に、多くの ESD 実践者を有する沖縄地域において「地域の教育実践者の世代交代」という各地域に広がる課題に着目し、ネットワークで課題解決を図る活動となる。</p> <p>海洋環境の変化に対応した人材育成＝「海洋教育への関心喚起」というテーマは、島しょ地域を多く抱える九州・沖縄において普遍性・汎用性の高い活動モデルとしての波及効果が期待される。</p> <p>長期にわたるパートナー団体の尽力によって、沖縄県におけるローカルな課題に対応したアプローチが模索されており、広く島しょ地域で参照されうる ESD 活動モデルとして期待される。</p>

## ■ステークホルダーミーティング概要

### ◎地球環境基金 助成金説明会との連動

EPO 九州が、例年各地で実施する環境再生保全機構による地球環境基金による助成金説明会を沖縄県で企画、開催した。

説明会を今回のモデル形成プロジェクトと連動させ、参加した地域の環境保全活動者に向けて、島しょ地域で人材育成の裾野を広げる活動に関する提案プログラムを実施し、パートナー団体が登壇した。

意見交換セッションでは、地域の環境保全活動に関する課題やニーズが集約され、この内容をステークホルダーミーティングに接続させるなど、有機的な事業連携を行った。

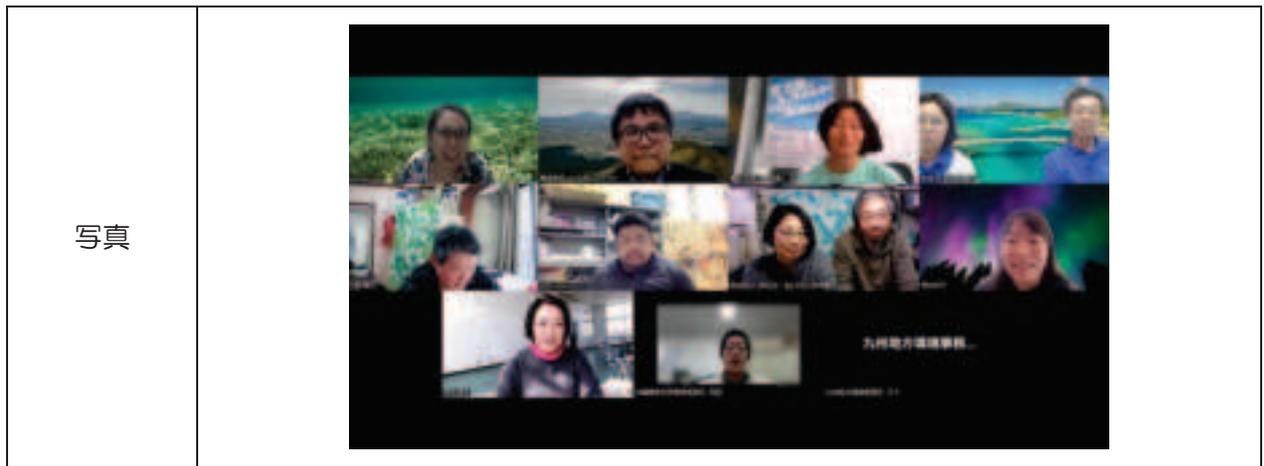
行事名	令和5年度 地球環境基金助成金説明会 沖縄会場
開催日等	日時：令和5年11月9日（水）14:00-16:00 会場：Gwave 宜野湾ベイサイド情報センター プレゼンテーションルーム

※詳細は別項「5. 外部連携事業」の通り

◎ミーティングの本開催

開催日	令和5年1月20日(金) 14:00-16:00
会場	<p>■オンライン会議システム：ZOOMの利用</p> <p><b>選択理由</b></p> <p>主要な参加者が沖縄県の離島、遠隔地に居住していることからの配慮に加え、オンラインに絞って効率的な進行を行うことで議論を円滑にすることを意図した。</p>
参加主体	<p>■地域関係者 12名</p> <p>体験活動提供者 地域内ビジターセンター 学術研究機関 地域内児童クラブ 沖縄県教育委員会 糸満市教育委員会 NPO 法人</p> <p>■事務局</p> <p>パートナー団体 九州地方 ESD 活動支援センター 九州地方環境事務所 環境対策課</p>
プログラム	<p>1. 開会</p> <p>2. 出席者自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・九州 ESD センターからプロジェクト概要と事例の紹介</li> <li>・ESD の基礎事項と本プロジェクトの説明</li> <li>・屋久島町から見る「島しょ地域の ESD 推進」</li> <li>屋久島型 ESD</li> <li>屋久島環境文化村構想</li> <li>資金調達をはじめとした持続性</li> </ul> <p>3. ミーティングの目的及び話題提供</p> <p>「沖縄県における海洋教育の推進とその担い手育成について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回のプロジェクトに関する問題提起</li> <li>・海洋教育の概念</li> <li>・地域での ESD プラットフォームの将来像</li> </ul> <p>4. 意見交換</p> <p>5. まとめ</p>
企画ポイント	<p><b>開催テーマ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①地域 ESD 継承のスキームの明確化</li> <li>②県内での課題共有の場づくり</li> </ul> <p>コンセプトのうち、学校現場での海洋教育の現状と必要性について検討し、担い手育成についての課題及びニーズについて関係者で共有し、ゆるやかなネットワークの仕組化を検討する。</p> <p><b>アプローチ先</b></p> <p>◎個別で活動している環境教育関係者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な観光業と ESD 実践の公約数を探る</li> </ul>

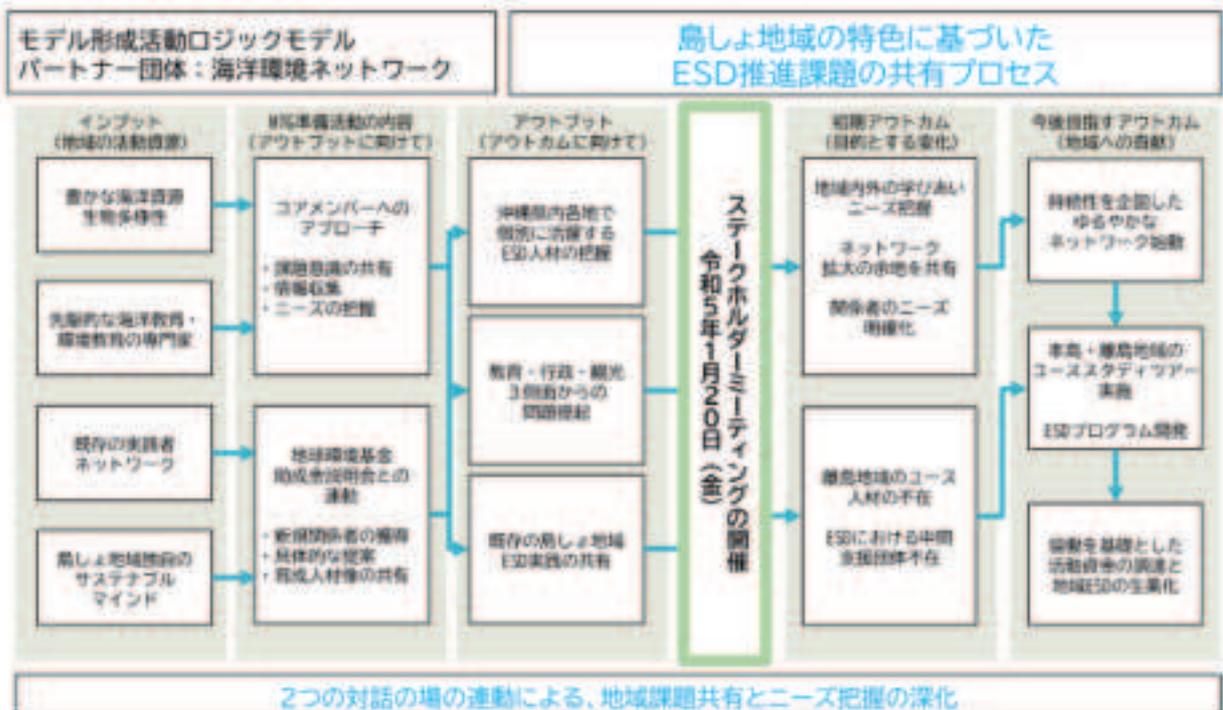
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワークに期待することを共有する</li> </ul> <p>◎想定した連携先</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会（海洋教育の実践）</li> <li>・行政機関（サステナブルツーリズムに向けた合意形成）</li> <li>・先進的なツーリズム団体（ESD の連携において）</li> <li>・その他、ESD 実践団体（海洋教育と島しょ間広域連携）</li> </ul> <p><b>プラットフォーム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●海洋環境の関心について現状把握と課題整理</li> <li>●コアからスタートする段階的な担い手育成スキーム構築</li> </ul> <p><b>パートナーシップ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●担い手となりえる人材の発掘及びネットワークの形成</li> <li>●観光業者以外のステークホルダー獲得</li> <li>●ユースの活動の支援及び取り込み</li> <li>●海洋に限らない森里川海の活動者との連携提案</li> <li>●教育委員会に限らない行政との連携提案</li> </ul> <p><b>取り組みの持続可能性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●資金獲得に資する教育者研修のクオリティアップフォロー</li> <li>●取組自走に向けたロードマップ</li> <li>●資金獲得助言のための企業、金融機関との接続</li> </ul>
<p>議論要旨</p>	<p>■議論によって明確化した課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個の活動での繋がりであり、ネットワーク化していない。</li> <li>・個での試行錯誤により学びの場が少ない。</li> <li>・環境教育はボランティアな活動であり、仕事として確立できていない。</li> <li>・活動の質にばらつきがある。</li> <li>・離島に大学生等のユースがない。</li> <li>・学校と実践者、学生と実践者などをマッチングする中間支援団体が必要。</li> </ul> <p>■ミーティング開催で得られた新しい視点、協力者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・離島での課題、都心部での課題</li> <li>・ユース（高校、大学生等）のニーズ</li> <li>・個をネットワークとする必要性</li> <li>・教育委員会との連携</li> <li>・中間支援の必要性</li> </ul> <p>■開催後に期待される新たな波及効果など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践者の経験値に関わらず、個をつないだ相互実践交流</li> <li>・学びあいの場づくり</li> <li>・教材や資料等の情報プラットフォーム</li> </ul>
<p>開催成果 及び 今後の展望</p>	<p>ステークホルダーミーティングの開催によって、活動の継続性についての期待値が上昇し、再確認された実践者のニーズに基づいて、現在地に即した活動が具体的に検討された。</p> <p>パートナー団体が主導し、沖縄県地域における学びあいの場が具体的に検討されており、獲得された新しい関係者、資源などを活用した活動が始動している。</p> <p>アプローチ先として想定された学校・子ども支援関係者、関心のあるユースに向けた、離島各地及び本島域におけるスタディーツアー企画や、都市部（大規模校）に対応した ESD プログラムの作成等が現在検討されており、島しょ地域の特色を反映した ESD 活動モデルが形成された。</p>



■九州 ESD センターの支援

団体の拠点施設への訪問打ち合わせ、定期的なオンラインミーティング等を実施した。  
 EPO 九州が開催協力し、沖縄県地域の環境保全活動者が参加する令和 5 年度地球環境基金助成金説明会と、本プロジェクト活動を接続した。  
 パートナー団体による海洋教育に関する問題提起と、実践者間の対話の場を設けることで、地域課題の整理と取り組み手法の焦点化を支援した。  
 これまで九州 ESD センターが情報収集を行ってきた、ESD 推進における島しょ地域の特性を分析し、活用できる地域資源の整理についても支援を行った。  
 また九州 ESD センターが連携する、先進的な島しょ地域の取り組みや、ESD に関する基礎情報を新規参加者へ提供し、地域ぐるみの ESD 推進ビジョンを共有した。

■パートナー団体活動ロジックモデル（九州 ESD センター作成）



## ウ、ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催

### ●業務目的

「地域ぐるみの ESD 活動モデル形成プロジェクト」を実施する中で判明した、地域ぐるみの ESD 活動推進に当たっての課題やその改善策、知見やノウハウを九州・沖縄地域 ESD 推進ネットワーク内で共有する。

### ■成果

「九州・沖縄地域 ESD 推進ビジョン」に基づいて実施した標記プロジェクトにおいて、パートナー団体が獲得した知見、地域課題の抽出、把握された支援ニーズを、幅広い参加者に共有する場として ESD 推進ネットワーク地域フォーラムを開催した。

フォーラムの企画運営にあたっては、パートナー団体のひとつである NPO 法人くすの木自然館の所在地である鹿児島県を選定し、会場選定等について連携を行った。

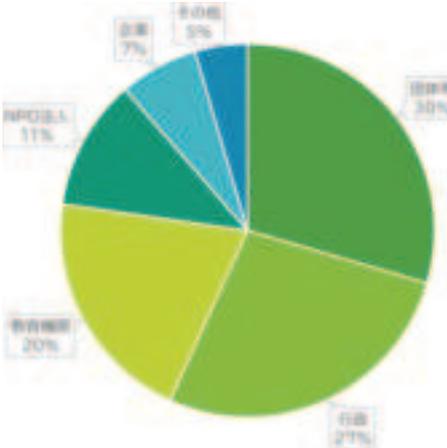
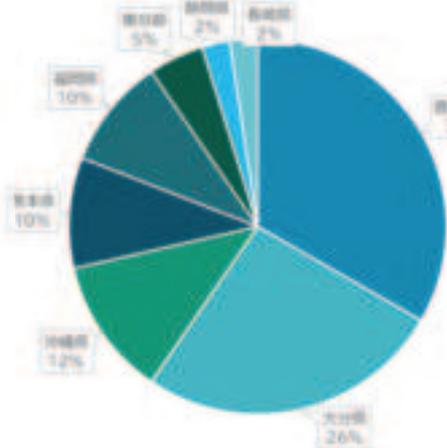
プログラムにおいては、九州沖縄地域外からの視点を導入することを目的に岡山大学から ESD 有識者を招聘し地域事例の紹介と助言提供を企画したほか、環境省環境教育推進室から国内外の ESD・環境教育に関する政策等最新情報を参加者に提供した。

「地域ぐるみの ESD」を描く上で不可欠な、地域ネットワーク構築モデルが 3 か所で展開していることから、ステークホルダーミーティングの検討、開催プロセスについて担当者が登壇し発表を行った。

本フォーラムの開催により、オンラインを含めた九州・沖縄地域の多様な ESD 実践者に対して、現在取り組む活動と ESD の接点について具体的なビジョンと視座を提供した。

またプロジェクトのパートナー団体においては、今回のフォーラムにて、活動への有識者助言提供や、政策情報と活動の関連が述べられたことで、活動の現在地が明確化されたとともに、他地域の ESD 実践事例を学ぶ貴重な相互参照の機会として機能した。

行事名	令和4年度 地域 ESD 学びあいフォーラム
目的	近年地域課題は複雑化しており、持続可能な地域の実現、課題解決人材の育成・教育活動は、個々の主体が単独で実施することが困難であることから、令和3年度、九州 ESD センターは持続可能な地域の実現に向けて、地域課題の解決に資する人材の育成方針を示す「九州・沖縄地域 ESD 推進ビジョン」を策定した。 情報提供と基調講演、ビジョンの実現に取り組む九州・沖縄地域の3つの活動団体から、地域ぐるみの ESD 活動事例を紹介いただき、持続可能な開発の担い手育成について考えるフォーラムを開催し活動モデルとして提示することで、実践者へ地域 ESD の推進力を提供する。
開催日等	日時：令和5年1月25日（水） 13:30-15:45 会場：かごしま環境未来館 多目的ホール（鹿児島市） オンライン会議システム：ZOOM 開催形態：対面・オンライン併用 主催：九州地方 ESD 活動支援センター
プログラム	1. 挨拶及び趣旨説明 九州地方 ESD 活動支援センター 2. 環境省環境教育推進室から情報提供 環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室

	<p style="text-align: center;">室長 河村 玲央氏</p> <p>3. 講師基調講演          国立大学法人 岡山大学 地域総合研究センター          副センター長・准教授 岩淵 泰氏</p> <p>4. ESD ダイアログ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●事例紹介セッション              ESD モデル形成に取り組んだ団体からの取組発表             <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定 NPO 法人地域環境ネットワーク（大分県）</li> <li>・NPO 法人 くすの木自然館（鹿児島県）</li> <li>・海洋環境ネットワーク（沖縄県）</li> </ul> </li> <li>●意見交換セッション              有識者による活動助言・地域内外の ESD に関する視点共有</li> </ul> <p>5. 閉会挨拶</p>
<p style="text-align: center;">参加 対象</p>	<p>参加人数：59 名（事務局を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・九州・沖縄地域の ESD 実践者</li> <li>・地域 ESD 活動推進拠点</li> <li>・地域内の教育行政・環境行政職員</li> <li>・地域内の学校、教育機関職員</li> <li>・その他、持続可能な社会の担い手づくりの関心層等</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>

アンケート 回答より	<ul style="list-style-type: none"> <li>●SDGs、ESD、環境教育の関係や関連する法律のことなど、あらためて考える場であった。</li> <li>●我が国におけるESDの歩みやESD推進拠点の増加など、世論の変化を感じた。</li> <li>●ESD推進活動の参加者数や対話の場は年々増えているということを知った。自然環境をただ守るだけではなく、地域と協力しながら活用していくことが大切であると改めて実感。</li> <li>●いかに環境問題が自分ごととして捉えられるかがカギとなるのではと感じた。</li> <li>●持続可能な社会形成のための人材育成への取組みは、高齢化する当NPOメンバーの後継者対策として喫緊の課題。是非、具体的にネットワークが広がり人材が創出・育成されることを期待したい。</li> <li>●環境教育について、早急な対応の必要性を再確認した。総合的な探究や各教科等を通じて系統的、組織的に取り組む必要がある。一般の方たちが、どの程度環境問題や関心があるか具体的な数字で知れたのはよかった。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●岡山県の各地区の紹介をされていますがそれぞれがやりたい事、やるべき事を地域の方々がしっかり連携して取り組んでいると感じた。</li> <li>●情報の共有、活動の評価と継承、仲間のまきこみが肝であるというのは納得できた。岡山の事例は、それぞれ成功のポイントが違っているところが、興味深かった。</li> <li>●体験・対話・参加を通して共通のトピックスを持つことが重要であると学んだ。市民が直接参加することができる話し合いの場があることは、情報共有や交流の場としてとても大切であり、また、実際に体験する活動があることで人やまちが元気になると思った。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●意見交換会にも繋がりますが、3団体が違うことをしているようで、同じような悩みと、同じような着地点を目指していると感じられたことが印象的だった。</li> <li>●既に活動している団体とこれから活動を始めようとしている団体の話とは、視点が違うのだと思った。</li> <li>●九州の中で、ESDについての様々な活動をしている団体があるということを知ることができて良かった。</li> <li>●プラットフォームを作るのに、三者三様の課題があって、それぞれが違ったアプローチをしているのが面白かった。それでもぶつかる壁が似通っているのも不思議だった。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●数値に表せない九州ESDセンターの取組が、現場では非常に支えになっていることが伝わった。</li> <li>●九州ESDセンターの活用の仕方について、知りたいと思った。</li> <li>●発表者の皆さんが述べられていたが、九州ESDセンターの伴走が県を超えて、九州のつながりを生むと思う。</li> <li>●ESDは学校教育で取り込んでいくものだとは認識していましたが、社会全体で学ぶ必要があるという事に気付かされた。</li> </ul>
---------------	---

写真

